

# 坂元小だより

鹿児島市立坂元小学校  
学校だより  
令和5年 7月号  
発行責任者：中村宗義



～やる気にみち、頑張りぬく、みんな笑顔の坂元小～

## 私たちにできることは？

校長 中村 宗義

先日、「貴校の児童がピンポンダッシュをしている。迷惑なので、指導をしてくださいませんか。」と地域の方から連絡があった。早速、全児童に指導をすると、正直に名乗り出てくれた。謝罪に伺うと高齢の女性が出て来られて、「子どもがすることだからいいですよ。ブザーが鳴らないように電池を抜きました。御丁寧にありがとうございました。」と謝罪に伺った私たちに文句を言うことなく、逆に頭を下げられた。こちらが、申し訳ない気持ちになった。実は、連絡をくださった方はこの女性ではなく、別の方ということがわかっている。この方から、「あちらこちらのマンションや一軒家でこのようなことが起こっているらしいですよ。」と聞かされた。

また、朝のあいさつ運動をしていると「この前、若葉町内会で壁に描いてある落書きを消したのよ。」という話題になった。相合傘だけでなく、目を覆いたくなるような言葉や絵も書いてあったらしい。確認に行くと、小・中学生の通学路である。約40mの壁面を削った跡が残っている。きっと、蒸し暑い中、大変だったろうと想像できる。

児童の下校時間に合わせてのパトロール活動も含めて、地域の方々の優しさや思いが伝わってくる。「子どもたちのために」「子どものすることだから」と許容しつつ、自分たちでできることは支援・対応してくださっている。坂元はそんな地域だということが感じることができる。

だとすると、地域の一員としての保護者の皆様や学校は地域に何を恩返しできるのだろう。



## いじめの未然防止・早期発見のために

6月26日（月）、小豆野法律事務所の小豆野弁護士を講師にお迎えし、職員研修を行いました。

「いじめ」とは、児童等に対して当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じるものをいふと定義されています。

児童が心身の苦痛を感じていれば、いじめとなりますので、いじめをなくすというより、いじめを見逃さず丁寧に対応していくことが重要です。御家庭や地域で、お子さんが心身の苦痛を訴えたときには、小さなことでも学校へ連絡していただきたいと思います。学校と家庭、地域が連携して、子どもが辛い気持ちを伝えやすい雰囲気を作り、子ども一人一人の心と体を大切にしていきたいと考えます。まずは自分を大切にする。そして、目の前の相手も自分と同じように大切にします。互いが互いの人権を大切にすることを目指して、学校・家庭・地域が連携・協力していただければと思います。



\*裏面もあります。